DESIGN GRADUATION WORKS 2022

会津大学短期大学部 産業情報学科 デザイン情報コース

卒業作品集

DESIGN GRADUATION WORKS 2022

ごあいさつ

会津大学短期大学部産業情報学科デザイン情報コースでは、「卒業研究発表会 研究要旨集」「デザイン情報コース卒業研究発表会」を経て、「卒業作品展」にて卒業研究ゼミの成果を一般の方々に公開し、ご批判を仰いでまいりました。この作品集はその集大成でもあり、発行も本年で18回目を迎えました。
産業情報学科では、卒業研究ゼミを必修科目として位置づけ、デザイン情報コースでは具体的なテーマ設定のもと、問題解決能力や創造性の研鑽に取り組んでまいりました。その内容はインターフェース、インテリア、グラフィック、クラフト、プロダクトのデザイン５分野にわたり、地域活性化に向けた取り組みや産業の支援、生活を豊かにするための提案など様々ですが、いずれも地道な研究を裏付けとした力作です。新型コロナウイルス感染症の影響により、地域課題に対する調査や検証に制限のある点もありましたが、その状況下でもそれぞれの研究テーマに対し、連日真剣に取り組む学生の姿には心打たれるものがありました。「障がい児の暮らしを豊かにするデザイン」では積極的に調査と検証を行いインテリア、プロダクト分野それぞれの特長を活かす優れた研究となりました。「桑の新たな価値を伝えるデザイン」や、「柳津の駅から町を歩こうデザインプロジェクト」では地域特産品の認知度アップや奥会津の新たな魅力発見につながる提案として学生の豊かな感性が感じられました。その他にも、会津のたたら製鉄の歴史を紹介するコンテンツの制作や漆工芸の新たな提案作品など、取り上げるテーマも多岐にわたり、各研究分野で学んできたことの集大成として完成度の高いものとなりました。
卒業する学生諸君は、新型コロナウイルス感染症からの様々な影響を乗り越えて、創作への熱意を持ち続けた日々とともに、この卒業研究ゼミで経験したプロセスと反省を通じて、創造することの喜び、諸問題に挑戦するエネルギー、充実したときを過ごして得た達成感などを糧に、今後の社会生活の中でさらなる飛躍につなげていってほしいと願っています。
最後に、この卒業研究および卒業制作にご支援、ご協力をいただきました学内外の関係者のみなさまに深く感謝し、厚く御礼を申し上げます。

2022年3月
会津大学短期大学部 産業情報学科
学科長　井波 純

目次

4 会津若松市湊地区のたたら製鉄と
その歴史を紹介するコンテンツ
今井 美徳　遠藤 里菜　黒澤 美佑
竹林 杏優　三浦 ケイ

6 グリーン・インテリア・スタイルを目指して
屋内緑化を目的とした植物を用いたデザイン・空間提案
猪又 理古

7 地域の建具技術を活用した
インテリア空間の提案
組子の技術をデザインに活かす
遠藤 華凜

8 障がい児の暮らしを豊かにする
生活サポートデザイン
会津若松市在住のウエスト症候群児童の
サポートを通して
渡邉 咲良

9 ウエスト症候群児童の暮らしを
豊かにするデザイン
自力での食事を目指したアイテムのデザイン提案
大竹 里奈

10 こどもの色彩感覚を育てる玩具の提案
伝統色を用いた玩具のデザイン
大友 いづみ

11 はがきを送るきっかけづくり
香りを付加させたはがきのデザイン提案
斎藤 愛加

12 読書生活を楽しくするための提案
メモスタンドとしおりについて
立花 優実

13 アトピー性皮膚炎患者を対象とした
ツールの提案
痒みと軟膏の塗布について
庭山 あす華

14 柳津の駅から町を歩こうデザインプロジェクト
遠藤 すずみ　丹治 帆乃香
天童 萌々美　渡部 鈴賀

16 花を贈りたくなるデザイン
遠藤 貴子

17 会津唐人凧に親しみを持たせるデザイン
鈴木 遥

18 きくらげを女性に広めるための
グラフィックデザイン
関根 莉央

19 桑の新たな価値を伝えるデザイン
根上 紗采

20 縄文
笠間 太呂

21 大切な文具のための文箱
新野 遥

22 海のゴミを通して自然界における
人のあり方を考える
星 安莉

23 日本の魅力を伝える菓子箱
星 知里

24 漆で新しい楽器を作る
星 鈴音

25 ゼミ紹介

会津若松市湊地区のたたら製鉄と その歴史を紹介するコンテンツ

今井 美徳　遠藤 里菜　黒澤 美佑
竹林 杏優　三浦 ケイ

福島県会津若松市湊町田代地区において、たたら製鉄の形跡があることが分かった。湊町ではこの歴史的資源を地域おこしに活用したい意向であることから、本研究では観光に訪れるきっかけの創出を目的とし、製鉄技術や関連する神社についてまとめた Web コンテンツを制作した。近年、テレビよりも動画サイトでの情報収集が増えている現状から、オリジナル Vtuber である「黒鉄（くろがね）みなと」と、それを使用した動画・ホームページを制作した。Vtuber が製鉄技術について親しみやすく丁寧に説明をするものなど、計４本の動画を制作することで、たたら製鉄に興味を持ってもらい動画からホームページに誘導する。また、詳細に製鉄技術や炭焼きの技術、関連神社を紹介することで実際の訪問を促し、アクセス情報として周辺地図を掲載している。

a. Vtuber「黒鉄みなと」
b. ロゴ
c. 動画「自己紹介」
d. ホームページ トップページ
e. ホームページ CHARACTER ～キャラクター～
f. ホームページ ABOUT ～湊地区と製鉄～
g. ホームページ SHRINE ～神社～
h. 動画「湊町の神社」
i. 動画「鉄の作りかた」
j. 動画「炭を焼こう」

［使用ソフト・サイズ］
動画：
Premiere Pro、After Effects、Photoshop、
VTube Studio、Live2D Cubism
1920 × 1080 pixel
ホームページ：
Visual Studio Code、CLIP STUDIO PAINT、Illustrator
（デスクトップ版）幅 1024 pixel
（スマートフォン版）幅 375 pixel

a

黒鉄（くろがね）みなと
Kurogane Minato

b

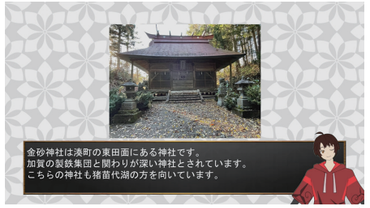
c

d

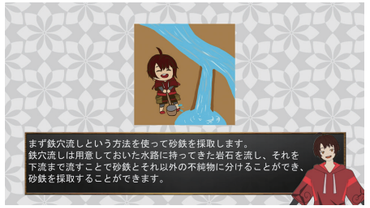
e

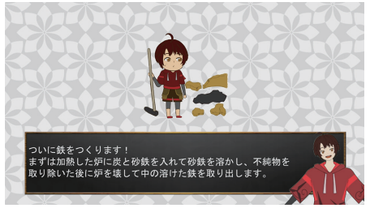
f

g



h





i

j

グリーン・インテリア・スタイルを目指して

屋内緑化を目的とした植物を用いたデザイン・空間提案

猪又 理古

本研究では、環境保護や省エネ対策に有効な手段として注目されている屋内緑化を取り上げた。屋内で植物をインテリアとして取り入れる際、飾り方のバリエーションが少ない点に着目し、植物を取り入れた家具としてパーテーションを制作した。基本となるユニットは壁面フレーム型を採用しており、それをさらにパーテーションにはめ込むことで、間仕切りとして使用できる。また、ユニット単体は卓上に飾ったり、壁に掛けたりすることができるように制作した。ユニットには３Ｄプリンターで制作したプランターと受け皿が入っており、木枠の表面を取り外しできる構造とすることで、植物の交換や水捨て、水やり回数が減らせる水やり器の導入が簡単に可能となる。今後の植物を取り入れた家具の制作に、新たな視点をもたらすことができたのではないかと考える。

a

b

c

a. パーテーション全体　b. フレーム（長方形、丸型、正方形）　c. フレーム内部の様子

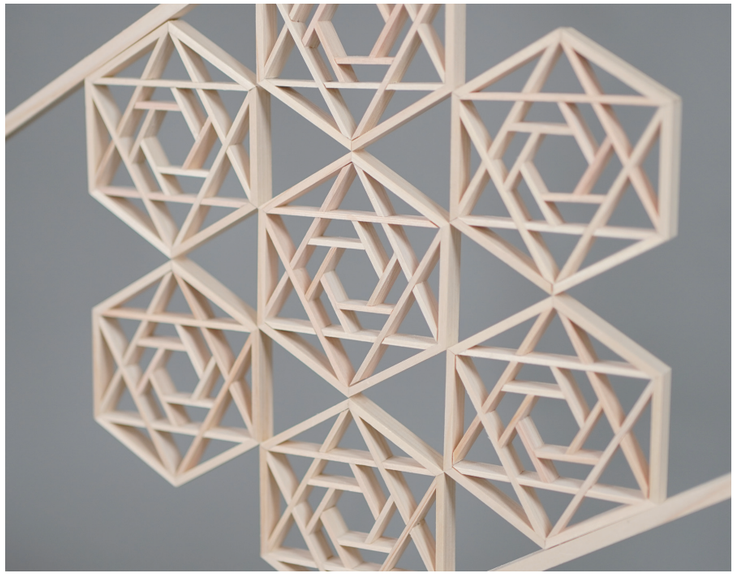
［素材・サイズ］シナ合板、ブナ材、杉材、ヒバ丸棒、PLA樹脂
パーテーション：150×40×165cm　正方形フレーム：44×11×44cm　長方形フレーム：44×11×66cm　丸型：φ44×11cm

地域の建具技術を活用した インテリア空間の提案

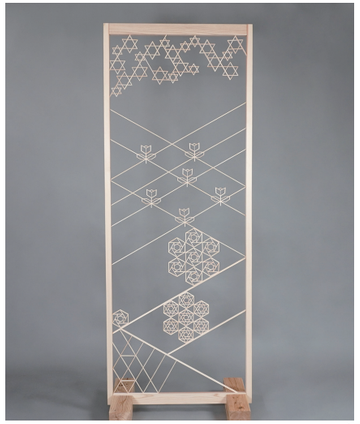
組子の技術をデザインに活かす

遠藤 華凜

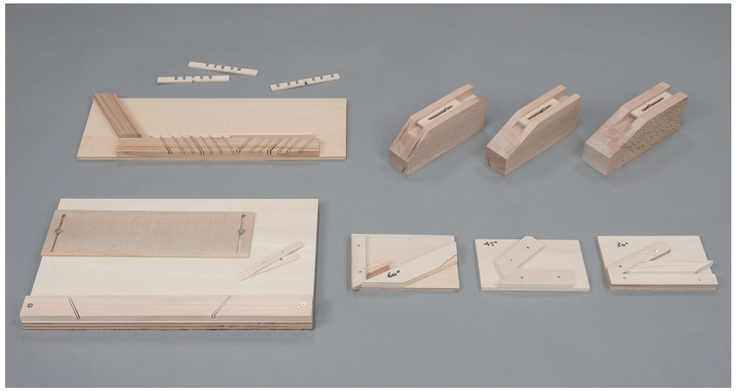
近年、地域の建具店が減少傾向にあり、建具業界は技術を発揮する場の減少による後継者不足等の問題を抱えている。また、新たな組子文様や家具との融合など、新しい領域を広げ、ワークショップ等の開催により親しみやすい技術となっている一方、建具技術を利用した空間デザインは、まだまだ一般住宅での需要の増加につながっていないのが現状である。本研究では、組子を用いて「洋」が主流となりつつある現代住宅に「和」を取り入れるための建具の提案と、建具技術の魅力を発信することを目的とし、組子文様と建具をデザイン・制作した。組子文様は四季や動物をモチーフにすることで年齢問わず楽しめるようにした。組子がより身近な技術となるような建具を制作でき、建具業界の価値を高め、可能性を広げる一歩を遂げることができたのではないかと考える。



a



b



c

a. バラと花火をモチーフにした夏の組子　b. 建具全体　c. 組子を作るための治具一式

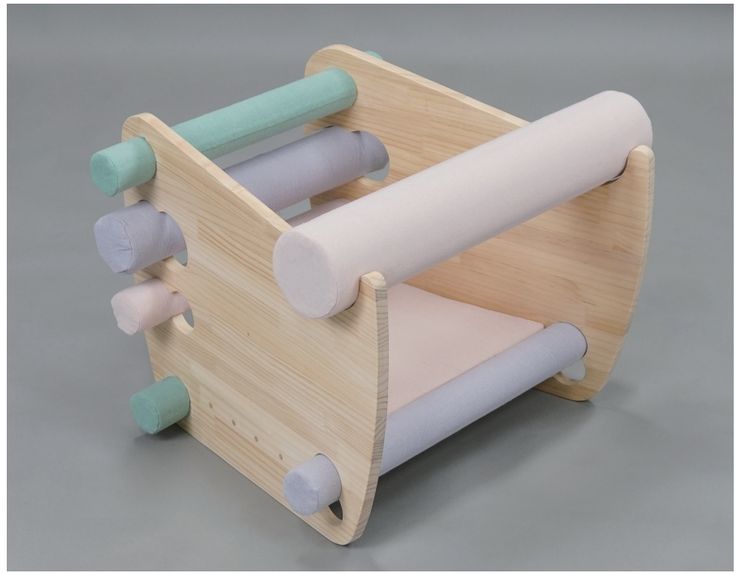
［素材・サイズ］建具枠：杉　組子：ヒノキ棒
75×3×195cm

障がい児の暮らしを豊かにする生活サポートデザイン

会津若松市在住のウエスト症候群児童のサポートを通して

渡邉 咲良

医療技術の発達によって、これまでであれば命を落としていたはずの新生児を救うことが可能になった。一方で疾患や障がいを抱えて生まれてくる児童は増加している。そのような児童たちは補助具を使用して生活しているが、一人ひとり症状が異なるため日常生活で不便に感じることが多くある。そのため個人に合った補助具が必要であると考え、本研究では対象となる児童へ補助具３点を提案・制作した。１点目は寝たきりの状態を改善するための座位保持椅子を制作した。脊髄の伸展を促す使い方と背筋を伸ばせる２通りの使用ができる。２点目の食事用テーブルは皿とコップを置くくぼみを作り、ずれを防止するとともに、動物をデザインすることで食事を楽しめるツールとした。３点目の姿勢矯正傾斜台は前傾になりがちな姿勢を改善し、筋力の発達を目的としている。



a

b

c

a. 座位保持椅子　b. 姿勢矯正傾斜台、食事用テーブル天板　c. 座位保持椅子を使用している様子

［素材・サイズ］パイン集成材、ブナ丸棒、ブナ角材、シナ合板、塩ビ管、低反発ウレタン、水性塗料、黒板塗料
座位保持椅子：60.2 × 54.3 × 44.8cm　姿勢矯正傾斜台：65 × 44.5 × 4cm　食事用テーブル天板：66 × 51 × 1.3cm

ウエスト症候群児童の暮らしを豊かにするデザイン

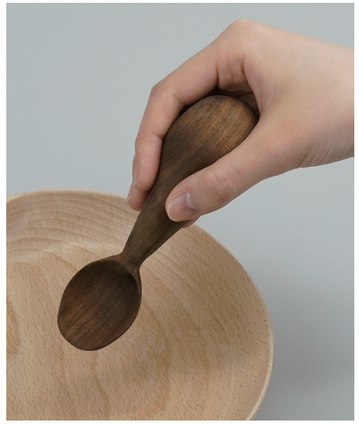
自力での食事を目指したアイテムのデザイン提案

大竹 里奈

ウエスト症候群とは乳児期に発症するてんかん性脳症で、脳の発達停滞または退行が特徴である。本研究ではウエスト症候群児童を対象とし、自力で食事をするための食事補助具を提案する。食事行動を観察・分析した結果、既存のスプーンと器の形状を変えることで自発的に食事ができるようになるのではないかと考え、スプーンの「柄」と先端の「つぼ」の形、そして器の「縁」の形状を検討した。10 種類以上のサンプルを対象者に使用してもらった結果、「柄」は高評価であった「握りやすさ」「つまみやすさ」に重点を置き、「つぼ」は対象者の口や上肢の可動域を意識した形状のスプーン２点を制作した。器は縁部分であるリムに返しを付けて制作した。この成果物によって、対象者が食事に対して前向きになり、生活する力を後押しする事ができれば幸いである。

a

b



c

a. 食事補助具（器、スプーン）　b. 検証に使用した柄のサンプル　c. 使用イメージ

［技法・素材・サイズ］スプーン：NC ルーター　ウォールナット　（握り）13 × 4 × 4.5cm　（つまみ）11.5 × 3.5 × 2.5cm
器：NC ルーター　ブナ　19 × 19 × 4.5cm

こどもの色彩感覚を育てる玩具の提案

伝統色を用いた玩具のデザイン

大友 いづみ

色彩感覚は、幼児期の視覚体験によって獲得されることが、研究によって明らかになった。また、日本には伝統色というものが存在し、日本人の繊細な色彩感覚によって生み出された色合いとなっている。そこで、色彩知育玩具の市場調査を行ったところ、伝統色を用いた玩具はほとんど存在しないことが判明した。以上のことから、伝統色を用いて、幼児期に色彩感覚を育成できる玩具のデザインを目的とした。本研究では、かさねの色目という平安時代の貴族たちが着物の重ね着に配色名を付けていた文化を参考に、着物と配色のアイデアを組み合わせた玩具と紙媒体の制作を行った。この玩具は、紙媒体に示された17通りの配色を参考に、衣となるパーツを人形に着せて再現するというものである。配色の面白さを楽しんでもらうとともに、色彩感覚の育成に繋がれば幸いである。

a

b

c　d　e

a. 作品全体　b. 人形に衣を被せる様子　c. かさねの色目（裏山吹）　d. かさねの色目（雪の下）　e. かさねの色目（薔薇）

［素材・サイズ］玩具：（人形）ブナ、ヒノキ、バルサ　5.5×5.5×11cm　（衣）プラスチック　6×6×5.5cm
絵本：紙　18×18.8cm

はがきを送るきっかけづくり

香りを付加させたはがきのデザイン提案

斎藤 愛加

近年、SNSの普及により、はがきを送る文化は若者を中心に薄れつつある。本研究では、はがきを送る文化を残すため、若者が送りたくなるはがきをデザインすることで、きっかけの創出を目的とした。既存の製品を調査した結果、四季折々の風物詩が印刷されたものは多いものの、受け取った後に別の用途として楽しめるものが少ないことが分かった。そこで、文香という平安時代から伝わる手紙で香りを届ける文化に着目し、さらに飾って楽しむことができる切り絵を組み合わせたはがきをデザインした。切り絵は季節の風物をモチーフとし、それぞれの季節に応じた香りをつけた。はがきを受け取った後、切り絵部分を外して飾り、季節ごとの香りを楽しむという、SNSでは味わえないデザイン提案は、若者にはがきを送る文化を普及するための足がかりとなったと考える。

a

b

c

a. はがき全体　b. 切り絵部分を切り取った状態　c. レモンをモチーフにした夏の切り絵

［技法・素材・サイズ］レーザー加工機　紙（レザック、はがき）、OPPフィルム、アロマオイル、エッセンシャルオイル
14.8×10cm

読書生活を楽しくするための提案

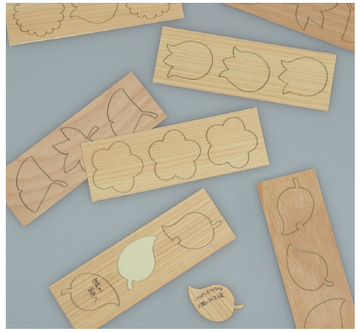
メモスタンドとしおりについて

立花 優実

本研究では、読書生活をより楽しくするツールの提案を行った。「読書をしている際に出会った印象的なフレーズを覚えておきたい」というアンケート結果から、「フレーズと出会い、記録し、後から見返しやすくする」をデザインコンセプトとした。記録のしやすさや持ち運びやすさという観点から、記録する媒体としてしおりを、見返しやすくするツールとしてメモスタンドを制作した。しおりは葉っぱや花をモチーフとし、それらを飾って見返すことのできるメモスタンドは、植木鉢と樹木をモチーフにしている。素材には木を使用することで温かみのあるデザインにした。しおりをメモスタンドに挟んで何枚も飾ることで、草花が生い茂るようにフレーズを咲かせることができる。そして、この一連の流れがより多くの本を読むことに繋げられるのではないかと考察する。

a

b



c

a. 樹木のメモスタンド　b. 植木鉢のメモスタンド　c. 木製しおり

［技法・素材・サイズ］木製しおり：レーザー加工機　薄板（カバ、ヒノキ）、和紙　14.5×4.9cm　樹木のメモスタンド：NCルーター　ヒノキ集成材、圧縮バネ　9×3×15cm
植木鉢のメモスタンド：NCルーター、MILK PAINTによる塗装仕上げ　ヒノキ角材、メモスタンド用クリップパーツ　（緑）8.2×8.2×13.5cm（クリーム）5.2×5.2×14cm（青）5.1×5.1×14cm

アトピー性皮膚炎患者を対象としたツールの提案

痒みと軟膏の塗布について

庭山 あす華

本研究では、アトピー性皮膚炎患者が日常生活で感じている悩みを解決することを目的とした。対象者4名へのインタビュー調査の結果、「痒み」「軟膏の塗布」に関する悩みが多く挙げられた。痒みにおいては、患部の痒みを我慢できず爪で掻きむしってしまうという悩みであったため、掻いても傷にならず痒みを和らげるアイテムを考案した。サンプルは凸部の長さ、および配列模様の違いによる掻き心地の変化に着目し、肌に優しいシリコンで制作した。軟膏の塗布においては、軟膏を塗る際に指を使うため、塗った後に手を洗うのが面倒という悩みが挙げられたことから、既存のチューブ型軟膏から直接塗布できる軟膏キャップを考案した。サンプルは塗布部の形による軟膏の塗りやすさに着目し制作した。フィードバックの結果、高評価であったものを最終成果物とした。

a

b

c

a. サンプルを使用している様子　b. キャップを装着した状態で薬を出している様子　c. 試作品

［素材・サイズ］掻く道具：シリコン　7.5×3×1cm、8×3×1cm
キャップ：PLA樹脂　（丸）2×2×1cm（四角）2×2×2cm（カバー）2.5×2.5×3cm

柳津の駅から町を歩こう
デザインプロジェクト

遠藤 すずみ　丹治 帆乃香
天童 萌々美　渡部 鈴賀

会津の縁起物である「赤べこ」には疫病退散の伝承があり、コロナ禍の今改めて注目されている。その赤べこ伝説発祥の地である柳津町は、JR只見線の復旧により観光客の増加が予想される。その中でも、地域外から柳津町へ来る若者にとってJR只見線が主な移動手段となると考え、「駅から町を歩こう」をコンセプトに、「柳津町デザインプロジェクト」として各種ツールを制作した。若者がSNSを通して町の魅力を発信し、観光客を誘致できるよう、駅から町内を楽しみながら巡ることができるルートマップの制作や、SNSに投稿する写真を撮影するためのフォトスポットを展開した。また、地域資源を活かした観光記念グッズの制作、新たな名物「うしとらあわまんじゅう」のパッケージ制作も行い、柳津町の魅力発信に繋げた。

a

b

c

d

a. パンフレット『会津柳津丑寅巡るーと』　b. フォトスポット看板が設置されている様子　c. クリアカード　d. 撮影している様子

［素材・サイズ］パンフレット：紙（表紙サイズ）29.7×10.6cm（展開サイズ）29.7×42cm
フォトスポット看板：紙、ポリエステル　29.7×21cm　全６点　クリアカード：ポリエステル　13×9cm

e

f

g

h

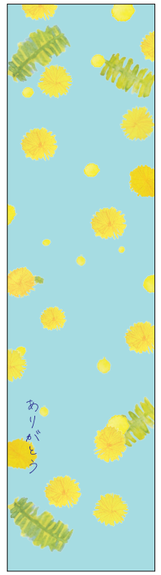
e. ポスター　f. ポスター、パンフレットを設置した様子　g. 手帳、シール　h. うしとらあわまんじゅう（パッケージ）

［素材・サイズ］ポスター：紙　103×72.8cm　全２点　手帳：紙　14.8×10.5cm　シール：紙、のり　5×5cm　全８点
パッケージ：（包装紙）紙　18×27.4cm（フィルム）ポリエチレンシート　15×15cm

花を贈りたくなるデザイン

遠藤 貴子

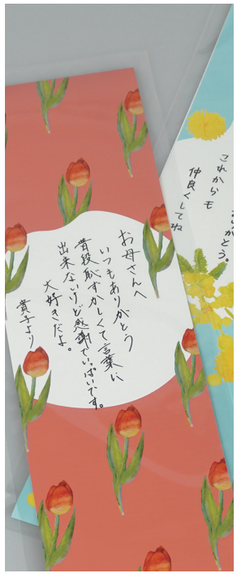
感染症が流行したことによりイベントや行事の中止が相次ぎ、花を贈る機会が減少してしまった。気軽に花を贈るきっかけづくりを目的に、子供から大人まで幅広い世代に気軽に購入してもらい贈りたくなる花のラッピングツールを提案する。花のみずみずしさを伝えるために水彩を使ったイラストレーションで表現することにより、フィルムに入った一輪の花が引き立つよう構成した。また、「ありがとう」「おめでとう」「だいすき」といった感謝の言葉と、贈り主が直接書き込めるメッセージ欄を取り入れることで、日ごろの感謝と想いを伝えられるようなデザインにした。贈るきっかけが些細なことでも、大切な人へ気持ちを伝えることで素敵な贈り物になると考える。本研究が、大切な人へ花を贈り、お互いの気持ちを伝える時に背中を押すものとなれば幸いである。



a

b

c



d

e

a. ありがとう（ミモザ） b. おめでとう（カラー） c. だいすき（アネモネ） d. メッセージ欄に書き込んだ様子 e.12ヶ月分のラッピングツールに花を入れた様子

［素材・サイズ］紙、OPPフィルム
48×12.5cm 全12点

会津唐人凧に親しみを持たせるデザイン

鈴木 遥

会津唐人凧は、大きく舌を出している表情や、力強い色が特徴の凧である。平成9年に福島県の伝統的工芸品に指定されているが、会津唐人凧を紹介するツールが少ないことから、他の工芸品に比べ認知度が低いことが問題点として挙げられる。そこで本研究では、幅広い世代に会津唐人凧へ親しみを持たせることを目的とし、ポスター、パンフレット、モビール制作キット、福笑いを制作した。ポスターで、会津唐人凧が空に揚がる様子や、職人の手仕事の丁寧さが伝わるものを制作し、パンフレットは、歴史や由来を紹介することで凧に興味を持ってもらえるような内容にした。また、モビール制作キットは風で揺れ動く様子を楽しみながら、骨組みの構造についても知ることができ、福笑いは親子で遊びながら会津唐人凧について学ぶことができるツールとなっている。

a

b

c

d

a. ポスター b. モビール制作キット c. 福笑いで遊ぶ様子 d. パンフレット

［素材・サイズ］ポスター：紙 72.8×51.5cm 全5点 モビール制作キット：紙、OPPフィルム（パッケージ）43.3×30cm（仕上がりサイズ）40×21cm
福笑い：紙（パッケージ）33.2×24cm（台紙）59.4×42cm パンフレット：紙（表紙サイズ）21×10cm（展開サイズ）21×39.6cm

きくらげを女性に広めるための グラフィックデザイン

関根 莉央

きくらげは女性の健康に役立つ栄養素が豊富に含まれる食材である。しかし、きくらげの栄養素や調理方法は広く知られておらず、一般家庭ではあまり食されていない。そこで本研究では女性にターゲットを絞り、きくらげの魅力を発信するためのグラフィックツール４点を制作した。レシピ付きカレンダーでは、気軽にきくらげを取り入れることができるレシピを掲載した。親子向けパンフレットでは、親子で楽しみながら読むことができるものを制作した。付箋やシュシュは、きくらげを身近に感じてもらえるようなデザインで制作した。この２点はレシピのメモや料理中に髪をまとめるものとして使用することができる。全ツールを通してきくらげの色や形を用いて女性に好まれるようにデザインし、きくらげが女性の健康に役立つ食材として広まるように制作した。

a

b

c

a. レシピ付きカレンダー、付箋　b. シュシュ　c. 親子向けパンフレット

［素材・サイズ］レシピ付きカレンダー：紙　29.7×21cm　付箋：紙　7.5×7.5cm
シュシュ：布　11×11cm　全８点　親子向けパンフレット：紙（表紙サイズ）14.8×10.5cm（展開サイズ）14.8×42cm

桑の新たな価値を伝えるデザイン

根上 紗采

二本松市東和地区では、衰退した桑畑を復活させるためのプロジェクトが盛んに行われている。その一環として、栽培した桑の加工品を販売しているが、地元の人などは桑の葉から養蚕業を連想するためか、売り上げが伸び悩んでいるのが現状である。そこで本研究では、既存のイメージを払拭して、地域内外の方々に桑の魅力を知ってもらうために、シンボルとなるロゴを中心に計９点のグラフィックツールを制作した。各ツールは、未来に向かう希望や、東和の桑畑の葉が光輝いて見える風景をパターンに変化をつけて表現した。また、美容や健康を意識する女性や、桑の葉を知らない若者へ魅力を発信するために、桑茶のさわやかな味を表現する明るい緑や、歴史を感じさせる伝統色の桑色などを用いることで、桑の葉に新たなイメージを定着させるデザインとした。

b

a

c　d

e

a. ロゴ　b. 商品ラベル、パンフレット、紙袋、茶筒ラベル、コースター　c. のぼり　d. 試飲用紙コップ　e. ポスター

［素材・サイズ］商品ラベル：紙（大）15×9cm（小）9×9cm　全５点　パンフレット：紙　21×14.8cm　紙袋：紙　36×28×8cm
茶筒ラベル：紙　4.5×23.5cm　コースター：コルク　9×9cm　のぼり：布　180×60cm　試飲用紙コップ：紙　6.5oz　ポスター：紙　72.8×51.5cm

縄文

笠間 太呂

近代文明の発展により、人間と自然の関係は複雑なものとなっている。その中で持続可能な社会を実現するためには、一人一人が当事者として「自然との共生」について考えるきっかけが必要だと感じた。そこで日本人の「自然との共生」のルーツは縄文時代にあると捉え、自然に対して畏敬の念を表していた縄文土器や土偶をモチーフとして、新しい縄文の造形を創出した。原型には自然物だけでなく、一部3Dプリンターなどの人工物を用いて出力した事で、自然環境を人為的に整備するといった、現代における新たな共生の形を表現した。全体の形状には、縄文時代に再生や循環の象徴であった女性を象り、下部には変わり塗の技法を用いて、自然の象徴である渦巻紋様の装飾を施した。また、その中に成長していく胎児に見立てた入れ子椀を納め、未だ見ぬ未来を表現した。

a

b

c

a. 作品全体　b. 全体と入れ子椀　c. 下部と入れ子椀

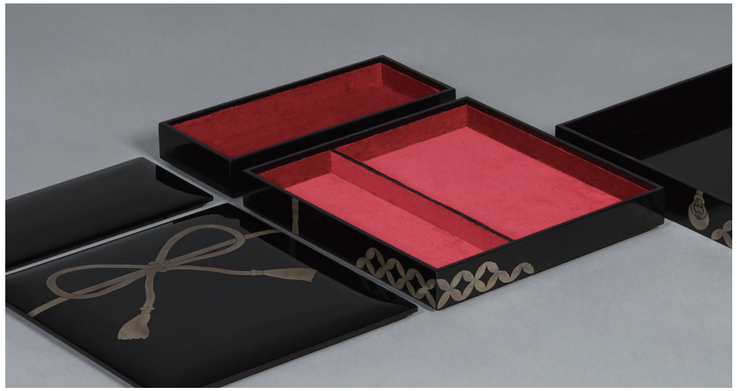
［技法・素材・サイズ］乾漆技法、石目地塗、変わり塗、擦り漆、3Dプリンター　漆、木材（栃）、乾漆粉、木質フィラメント
（全体）23×23×42cm（お椀）19×19×9.5cm、17×17×8cm、16×16×6.5cm、14×14×5.5cm、13×13×5cm

大切な文具のための文箱

新野 遥

平安時代に平仮名と片仮名が生まれ、文学の発展とともに筆と墨を使って文字を書くことが広まった。それらの文具を収納するため、趣向を凝らした硯箱や文箱が貴族・武家社会の中でもてはやされ、日本の読み書きを支えていたことを知った。現代において、幼児は文字を覚える前から手探りでクレヨンを使い、大人になってからも様々な場面で文具を使う機会は増え続け、私たちの生活から一生離れないものとなっている。本研究では、大切な文具を保管するために二段の文箱を制作した。読み書きを支えるだけでなく、漆の魅力も伝える文箱はお気に入りの文具を守り、物を長く大切に使用することを考えるきっかけとなるだろう。自分にとっての愛用品である文具を末長く使用して欲しいという思いを縁起の良い「蝶結び」「七宝つなぎ文様」の平蒔絵に込めた。

a



b

c

a. 作品全体　b. 展開した様子　c. 蓋裏（地元の特産品をモチーフにした加飾）

［技法・素材・サイズ］平蒔絵、消金蒔絵　漆、木材（朴、合板）、麻布、別珍、銀粉、金消粉
33×23×8.3cm

海のゴミを通して自然界における人のあり方を考える

星 安莉

環境省によると、世界では１年間に約877万トンのプラスチックゴミが海に流出しており、保護されたアオウミガメが１か月にわたりプラスチックゴミを排泄し続けたという報告がある。このことから人は広大な海だけでなく、生物の胃袋さえもゴミ箱にしていると捉えられる。そこで一人ひとりに当事者意識を持たせるために、人と多くの生物が共存する中で何を考え、行動すべきかを考える機会をもたらすことを目的とし、被害を受けている海亀をモチーフに漆造形作品を制作した。天然資源である漆を用いながら原型のスタイロフォームを意図的に残すことで、自然と、目に見えない部分の人工物との対比を表現した。また、腹部のゴミを可視化させることで現実感を演出した。海洋ゴミ問題の現状を理解することが、問題解決のための一歩であることを認識してほしい。

a

b

a. 背甲部
b. 腹甲部

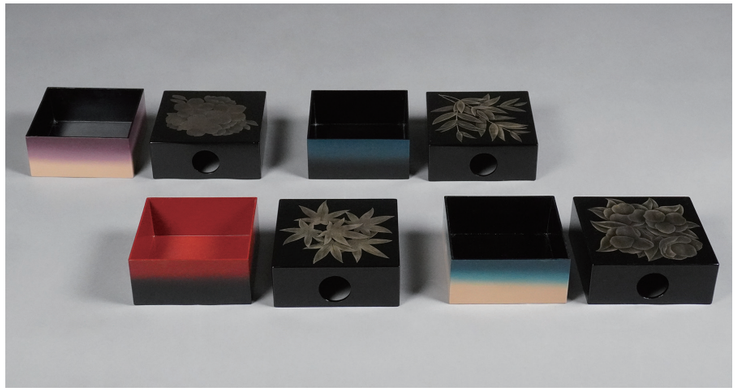
［技法・素材・サイズ］
乾漆技法、石目地塗、ぼかし塗
漆、麻布、スタイロフォーム、和紙
105×102×35cm

日本の魅力を伝える菓子箱

星 知里

かつて日本人は、食べ物や植物を通じて季節の移り変わりや豊かな自然を身近に感じ、四季を味わうことに喜びを見いだしていたが、現代では暮らしの中から季節感や風物詩が失われつつある。また、人の一生にはひな祭りや七夕などの年中行事や冠婚葬祭があり、その際に和菓子は私達の目を楽しませてくれた。そこで、日本の伝統工芸品である漆器を通して日本の魅力を伝えるために４つの菓子箱を制作した。蓋の上面は季節を代表する植物を描き、側面には日の丸に見立てた穴を開け、指かけとしての機能を持たせた。内箱の側面は清少納言の随筆「枕草子」から季節ごとに趣ある時間の空気感をぼかし塗で表現した。制作した菓子箱を通して、漆工芸の魅力だけでなく普段の生活にある景色の美しさや、人を想う日本の文化へ目を向けるきっかけになれば幸いである。

a



b

c

a. 作品全体　b. 蓋を開けた様子　c. 加飾部分

［技法・素材・サイズ］ぼかし塗、平蒔絵、消粉蒔絵　漆、木材（朴、合板）、麻布、銀粉、金消粉
13×13×6cm

漆で新しい楽器を作る

星 鈴音

日本の和楽器には太鼓や笛、弦楽器など昔から愛されている楽器が存在する。その中でも、和太鼓は祭礼や歌舞伎など様々なシーンで親しまれてきた。また、音楽は年齢や言語を超えて共有できる手段であるとともに、漆も海外で「Japan」と呼ばれるように、日本の象徴として国境を越えて親しまれている。そこで、乾漆技法を用いた太鼓の胴を制作することで、打楽器を通して漆の魅力を改めて発信したいと考えた。皮張りに耐えられる強度を得るために、漆で麻布を９枚貼り重ね、伝統的な会津絵を施すことで漆の魅力を引きだした。乾漆技法の新たな一面としての可能性を広げることができた。伝統的な漆芸作品だけでなく、漆と様々な物を融合することで、更に漆が年齢や国境を越えて人々に親しんでもらえるような成果物となったのではないだろうか。

a

b

a. 太鼓全体
b. 太鼓を叩く様子

［技法・素材・サイズ］
乾漆技法、蒔絵（会津絵）
漆、麻布、紐、山羊皮
34 × 34 × 44 cm

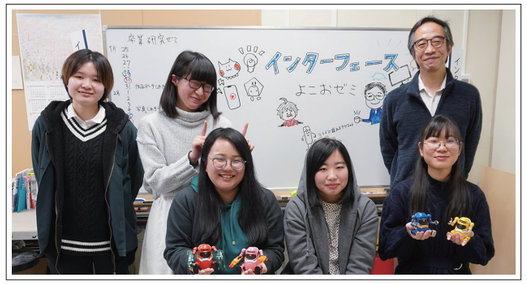
インターフェース ｜横尾ゼミ｜

プロフェッショナル　横尾の流儀

インターフェースゼミでは、Webデザインを中心にコンテンツの制作方法や流行のデジタル技術、プログラミング等について学びます。前半は、全員でソフトの使い方などの基礎を学び、デジタルコンテンツの活用例から、デジタルデザインの在り方について考えます。後半は、それぞれが自由に制作に取り組むことができるので、デザイン情報コースのゼミの中では一番自由度の高いゼミであると思います。また、横尾先生がとても親身になって指導してくださるので、詳しい知識を持っていなくても気軽に学ぶことができます。

Yokoo 47th Anniversary

毎年、１年生も含めゼミ生全員で横尾先生の誕生日会をします。全員参加のUNO大会でゼミ生同士親睦を深めつつ、素敵な横尾先生の人柄に楽しませて頂きました。入学してから大きなイベントがなかった私達にとってはとても充実した時間になりました。デザイン実習の課題であるゲーム制作では、ゼミ生が協力し合って１つのものを作り上げていく難しさを経験しました。卒業研究でも、イラストやプログラミングなど、それぞれが得意なことを生かしてお互いにサポートし合いながら、良い作品を制作することができました。



インテリア ｜柴﨑ゼミ｜

日進月歩

インテリアゼミでは、建築設計をはじめ、インテリア、空間、家具、まちづくり等の幅広い分野について学びます。建築3DCGや図面、模型の制作などの技術を磨き課題を進めていきます。また、指定科目の単位を取得することで、卒業後に実務経験０～２年で二級・木造建築士の受験資格を得ることができます。学ぶことが多く、忙しい２年間になりますが、仲間と協力して課題に取り組めるので、作品が完成した時には大きな達成感を感じることができます。幅広い知識が身につき、充実した日々を送ることができるゼミです。

切磋琢磨

インテリアゼミは現地調査に行くことが多く、実際に建築物を見て学ぶことができます。実習では新潟県の潟博物館や豊栄図書館などの現地調査や、リノベーション課題においては市内の建築物の実測も行いました。実際に行くことで写真だけでは分からない建築物の空間を感じることができ、とても勉強になりました。インテリアゼミは課題が多く忙しくなる期間もありますが、今ではそれも良い思い出だったと感じています。３人と少ない人数ではありましたが、だからこそ協力して課題や卒業研究を乗り越えられたと思います。

プロダクト　｜沈ゼミ｜

笑顔のものづくり

プロダクト分野は、工業製品に加え家具や食器、玩具などの生活用品も扱う幅広い分野です。プロダクトゼミでは、生活を豊かにする製品デザインについて学びます。人々が普段の生活の中で感じている不満や欲求から問題を抽出し、アンケート調査や議論を通して適切な解決策を探っていきます。モノを作って、使って、改善していくことで使いやすい製品が生まれます。「こうすると面白そうだな」「こうするともっと便利になるな」などの好奇心から得たアイデアが想像よりも良いモノになったり、誰かを笑顔にしたりするのです。

真面目な５人と沈先生

ゼミでの最初の授業は段ボール椅子の制作でした。何から始めればいいのかが分からない私達に、沈先生はいつも親身になって教えてくださいました。幕張メッセまで自ら運転して連れて行ってくださった事、ゼミ生の誕生日をお祝いしてくださった事、感謝の気持ちでいっぱいです。そんな先生の下で、プロダクトデザインを学べて本当に良かったです。この短大生活で、あらゆる貴重なものづくりの経験をさせていただきました。２年間はあっという間でしたが、沈ゼミでの経験と思い出はこれからの私たちの大きな励みになります。

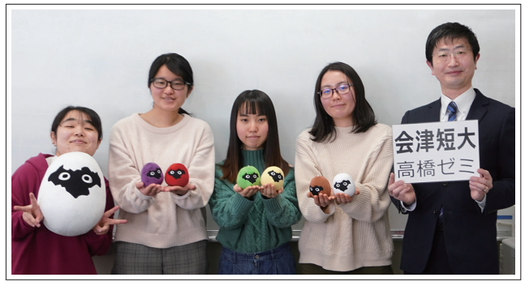
グラフィック　｜高橋ゼミ｜

社会に役立つ達成感！

グラフィック分野は、広告・出版・印刷などに関連することを学び、将来へ向けて経験を積み重ねていくことを目標にしています。ゼミの授業では、様々な媒体のポスターやロゴマークなどの作品を作りながら学んでいます。高橋ゼミでは特に、外部と連携を図りながらツールを制作する活動が多く、その中でコミュニケーション能力や社会性を身に付けることを重視しています。自分たちが制作した作品が社会で役立っている達成感を感じられるとともに、グループで活動することによって、協調性や団結力が高まります。

てくてくおさんぽゼミ

高橋ゼミは別名「お出かけゼミ」とも呼ばれ、色々な場所に取材・調査に行く機会がたくさんあります。奥会津で自然を満喫したり、トロッコ列車に乗ったり、ご当地グルメを食べたり、美術館や博物館を見学するなど、アクティブに活動します。ゼミの先生である高橋先生は知識が豊富で、私たちに役立つことをいつも穏やかに教えてくれます。私たちの笑顔を第一に考えてくださる先生のおかげで毎日を楽しく過ごすことができました。この経験は、これからそれぞれの道を歩くわたしたちを勇気づける、大切な思い出ばかりです。



グラフィック　｜北本ゼミ｜

高めあい、極めるゼミ

北本ゼミでは、文字や図を構成し視覚的に情報を伝えるためのグラフィックデザインを学びます。実習では、ポスター・パンフレット・パッケージなどの幅広い媒体の制作を通して、発想力やそれを形にする表現力を培うことができます。２年間の集大成となる卒業研究では、自分で決めたテーマに沿って取材から制作まで責任を持って取り組みます。また、北本先生はゼミ生一人一人に寄り添い、一つ一つ丁寧に指導をしてくださいます。デザイナーになりたい人、デザインを極めたい人はぜひ北本ゼミで表現力を高めあいましょう。

支えあい、強くなる

私たちは多くの制作活動や卒業研究を通してそれぞれ弱い部分を自覚し、時にはゼミ生同士でお互いの足りない部分をサポートしながら取り組んできました。そうして２年間を乗り越えてきた私たちは誰よりも強くなれたと思います。そしてなにより、そんな私たちに根気強く付き合ってくれた北本先生のおかげで今の私たちがいます。表現力、構成力など、デザインに必要なものの他にも、様々なことを学ぶことができたこの２年間の経験を支えに、卒業後もそれぞれの明るい未来に向けて邁進していきます。

クラフト　｜井波ゼミ｜

私と漆

井波ゼミは、漆工芸を専門に学ぶゼミです。漆は、縄文時代から用いられてきた天然素材です。授業での制作や、公募展に応募する作品を通して、若い世代の方々にも漆の魅力を感じていただきたいと考え、日々活動しています。漆器やスツールなど、一から自分で作り上げるので、絵を描くことや物作りが好きな方におすすめです。また、ゼミ仲間と作品を制作しながら時間を共有することで、心身ともに成長することができます。漆工芸は工程が多く、根気のいる作業ですが、完成した時の達成感は自分の自信にも繋がります。

シフォンケーキは美味しい

井波ゼミでは短い期間で漆を学ぶため、密度の濃い時間を過ごすことができます。自ら目的を考え作品を制作することは大変ですが、お互い意見を出し合うことで、自分自身の表現の幅を広げることができます。卒業研究の制作の際は、休日や夜遅くまで作業することもあります。しかし、井波先生が親身になって指導してくださったおかげで、諦めることなく作品を作り上げることができました。さらに、作業中に差入れで頂いた「井波特製手作りシフォンケーキ」は、私たちの疲れ切った脳に新たな活力を与えてくださいました。

卒業作品集
DESIGN GRADUATION WORKS 2022

編　　集｜北本 雅久　加藤 早織　小林 亜衣美

デザイン｜北本 雅久

発　　行｜会津大学短期大学部
産業情報学科 デザイン情報コース
福島県会津若松市一箕町大字八幡字門田1-1
TEL 0242-37-2300（代）　URL https://www.jc.u-aizu.ac.jp/

発 行 日｜ 2022年3月18日

本書の無断転写、転載、複製を禁じます。

JUNIOR COLLEGE OF AIZU